

Vol.72

Vol.72 (2017年 秋号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Best Practice and Competence / PM 事例・知識 3

Activities / 支部活動 12

PM Calendar / PM カレンダー 14

Fact Database / データベース 16

Editor's Note / 編集後記 20

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

◆『PMBOK®ガイド第6版』の特徴	3
PMI日本支部 標準推進担当理事 鈴木 安而	
◆【部会紹介シリーズ】その3 『PM翻訳出版研究会』	5
PM翻訳出版研究会 代表 伴 和子	
◆【部会紹介シリーズ】その4 『プロジェクトマネジメント研究会』	8
プロジェクトマネジメント研究会 副代表 加藤 裕哉	
◆【部会紹介シリーズ】その5 『若手PM育成StudyGroup』	10
若手PM育成StudyGroup リーダー 高橋 宏壽	

Activities / 支部活動	12
• PMI Japan Festa 2017のご案内	

PM Calendar / PM カレンダー	14
• PMI日本支部関連セミナー等	

Fact Database / データベース	16
------------------------------	----

Editor's Note / 編集後記	20
----------------------------	----

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。

「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Officeの商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

■『PMBOK®ガイド第6版』の特徴

PMI日本支部 標準推進担当理事 鈴木 安而

『PMBOK®ガイド第6版』をお読みになれましたか？ PMI会員ならば無料でダウンロードできますが、まずPDFの容量に驚かれたことでしょうか。なんと100Mbを超えて、ダウンロードにも時間がかかります。現状のページ数は740ページですが、まだ現在のPDF版には用語集までしか収録されていません。印刷版では索引と翻訳貢献者名簿が追加されますので756ページになります。第5版は605ページでしたが、次のような内容を充実させたために分量が増えているのです。第6版は非常に興味深い内容が満載です。

1. 第1章から第3章までがほとんど書き換えられて、内容が充実しました。

(ア) 第1章の特徴：最初に歴史的なプロジェクトの例が紹介されています。具体的なプロジェクト名を記述したことは、『PMBOK®ガイド』の歴史の中では初めてのことです。そして従来のポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメント、およびプロジェクトマネジメントの関係に加えて、ライフサイクルの考え方を拡充し、さらに開発アプローチとして、予測型（ウォーターフォール型）、反復型、漸進型、そして適応型（アジャイル型）に関する概要が記述されています。

(イ) 第2章の特徴：従来の組織のプロセス資産と組織体の環境要因に加えて、ガバナンス、マネジメント要素、そして組織構造に関する新たな情報が追加されました。

(ウ) 第3章の特徴：PMI タレント・トライアングル®に沿って、プロジェクト・マネジャーに求められる、リーダーとしての新しい役割やコンピテンシーを詳細に説明しています。特にプロジェクト・マネジャーが担当すべき領域としての統合マネジメントの重要性について記述しており、全体最適の考え方が重視されています。さらに、プロジェクトは事業価値達

成の手段であるという位置付けから、組織戦略やビジネスに関するマネジメントの領域に言及されています。

2. 各知識エリアの最初に、「主要概念」、「傾向と新たな実務慣行」、「テーラリングの考慮事項」、そして「アジャイル型環境や適応型環境への考慮事項」という4つの重要な内容をサブセクションとして追加し、最新の情報や動向が反映されました。

3. 知識エリアの名称変更。

(ア)「タイム・マネジメント」は、理解しやすいように「スケジュール・マネジメント」へと変更になりました。確かに「時間」をマネジメントするわけではありませんね。第6版では、プロセス名称も意味を考えて見直されています。

(イ)「人的資源マネジメント」は、ISO21500と同じように「資源マネジメント」となって、「人」だけでなく「物資」を含めたプロジェクト資源をマネジメントするように変更になりました。そのためにいくつかのプロセスの名称が変更されています。

4. プロセス数は、47から49になりました。そして各プロセスにおけるインプット、ツールと技法、およびアウトプットについての記述は、前出であっても省略せず、できるだけ詳細に説明しています。特にツールと技法は新たな分類としてまとめてあり理解しやすくなっています。プロセスには、内容の変更は別にして、次の4種類の変更があります。

(ア) 新規プロセス：

- ①プロジェクト知識のマネジメント（統合マネジメントー 実行プロセス群）
- ②資源のコントロール（資源マネジメントー 監視・

■『PMBOK®ガイド第6版』の特徴

コントロール・プロセス群)

③リスク対応策の実行（リスク・マネジメント— 実行プロセス群）

（イ）削除プロセス：

①調達終結（調達マネジメント— 終結に関わる内容は「調達のコントロール」と「プロジェクトやフェーズの終結」プロセスに分割され吸収された）

（ウ）移動プロセス：

①アクティビティ資源の見積り（スケジュール・マネジメントから資源マネジメントへ移動された）

（エ）名称変更プロセス：9個のプロセスの名称が変更されました。例えば「監視・コントロール・プロセス群」では、「リスクのコントロール」が「リスクの監視」のように「監視」へと変更になったケースがあります。これは、リスクそのものはコントロールできないので監視する、という意味です。他にもコミュニケーションやステークホルダー関係でも同じことが言えます。また「品質保証」という名称は、誤解を生みやすいという理由で「品質のマネジメント」になりました。英語は「Manage Quality」です。それ以外にも「プロジェクト憲章の作成」のように、翻訳側の理由によって「の」を追加したプロセスが複数あります。

5. 49プロセスの特性が3つに分類されました。プロジェクト設計がやりやすくなります。

（ア）一度だけ実施される

（イ）定期的に実施される

（ウ）継続して実施される

6. 知識エリアにおける内容変更があります。例えば、統合マネジメントにおける知識マネジメントでは、教訓の収集と活用をプロセスの実行中に進めるようになっています。さらにリスク・マネジメントでは、興味深い新たな情報がたくさん追加されています。

7. 『PMBOK®ガイド』は、元来、「標準」の部分と「ガイド」の部分に分かれています。ご存知でしたか？ その「標準」の部分は、5つのプロセス群に沿った構成として、プロセスのインプットとアウトプットを中心として記述されています（ツールと技法はない）。第6版では、さらに独立した標準文書として十分な内容を含むように書き換えられました（パート2）。そのため内容は「ガイド」（パート1）の部分との重複があります。

個々の詳細については『PMBOK®ガイド第6版』をお読みになってください。プロジェクトマネジメントの最新の考え方が手に取るように理解できます。また当然、実務ガイドとしての性格もありますので、みなさんがプロジェクト・マネジャーとして担当されるプロジェクトのためのテーラリングがいかに重要なかが理解できます。

【部会紹介シリーズ】その3

■PM翻訳出版研究会

PM翻訳出版研究会 代表 伴和子

1. はじめに

私達PM翻訳出版研究会では、次の3つのミッションに基づいて活動を行い、PMI®が発行する実務標準や定期刊行物の翻訳や出版を通じて、PMI日本支部の会員の皆さまや、広く日本のPMコミュニティに貢献しています。

- ①PMI標準などの翻訳出版を支援する。
- ②PMIが発行するPMに関する英文記事から適切なものを選択し、翻訳公開する。
- ③当研究会や他の関係組織での翻訳・出版作業品質の向上を支援する。

2. PMI®の出版物と日本語化プロジェクト

PMI®が発行する出版物は、大きくは、『PMBOK®ガイド』と標準本、とそれ以外の学習向けの出版物に分かれます。

PMI®の出版物

PMBOK®ガイドと標準本 PMBOK® Guide & Standards	学習向け出版物 Learning
PMI®標準 Foundational Standards	ソート・リーダーシップ Thought Leadership パルス・レポート PMI's Pulse of the Profession®
PMI®実務標準とフレームワーク Practice Standards & Frameworks	ソート・リーダーシップ・シリーズ Thought Leadership Series
PMI®実務ガイド Practice Guides	その他の出版物 Publications PM Network® PMI Today® News letters

この中でPMI®標準には、『PMBOK®ガイド』をはじめとした基本の標準本4冊が含まれ、すべて日本語化されています。また、『PMBOK®ガイド』拡張版3冊の内、ソフトウェア拡張版が日本語化されています。現在、建設拡張版の日本語化のプロジェクトを準備中です。

PMI®標準と拡張版



2つめのグループのPMI®実務標準とフレームワーク7冊もすべて日本語化されています。

PMI®実務標準とフレームワーク



■部会紹介シリーズ

PMI®の標準本は、PMI本部が定義した厳密な作成プロセスに従って作成される出版物ですが、3つ目のグループとなる実務ガイドは厳密なプロセスを経るのではなく時間を掛けずに作成し、PMIで旬だと思われるテーマや今後、重要視されると予測されるテーマについて、スピード優先で読者に情報を届けることを目的として発行されています。実務ガイドでは、このような旬なテーマに対して、PMI標準をどのように適用するのかについての情報を提供しています。PMI本部では、現在、6冊が発行されており、日本語版ではビジネスアナリシスに関するガイドが今年1月から販売開始され、現在、2冊目のチェンジマネジメントに関するガイドを制作中です。

PMI®実務ガイド

- ・実務者のためのビジネスアナリシス 実務ガイド
- ・Managing Change in Organizations: A Practice Guide
- ・Requirements Management: A Practice Guide
- ・Governance of Portfolios, Programs, and Projects: A Practice Guide
- ・Implementing Organizational Project Management: A Practice Guide
- ・Navigating Complexity: A Practice Guide

ビジネスアナリシス

2017年1月
販売開始

チェンジマネジメント

現在
翻訳中

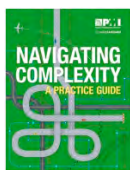
要求管理



PPPM



組織的PM

複雑性の
ナビゲート

これらの標準本の日本語化プロジェクトは、該当テーマを研究されている研究会を中心に編成され、標準化推進委員会の承認を持って発足します。私達、PM翻訳出版研究会では、自薦他薦で、これらの日本語化プロジェクトに参加しています。

PM翻訳出版研究会で関わった日本語化プロジェクト

年度	分類	出版物名
2009年	PMI実務標準	プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系 第2版
2012年	PMI実務標準	スケジューリング実務標準 第2版
	PMI実務標準	アード・バリュー・マネジメント実務標準 第2版
2014年	PMI標準	ポートフォリオマネジメント標準 第3版
	PMI標準	プログラムマネジメント標準 第3版
2015年	PMI標準	組織的プロジェクト マネジメント成熟度モデル (OPM3®) 第3版
	PMI標準	PMBOK®ガイド 第5版 ソフトウェア拡張版
2016年	実務ガイド	実務者のためのビジネスアナリシス 実務ガイド
2017年	実務ガイド	組織的チェンジマネジメント 実務ガイド(仮称) 作成中

3. 標準本以外の出版物

標準本の日本語化プロジェクトに参加すると、かなりボリュームがある作業となりますが、プロジェクトに参加していない時期は、標準本以外の出版物を翻訳することで、翻訳作業を続け、日夜、翻訳の腕を磨いています。

標準本以外の出版物のひとつにパルス・レポート (PMI's Pulse of the Profession®) があります。

パルス・レポートは、PMI®が戦略的にフォーカスしている領域についての報告書で、プロジェクトマネジメントにおける最新の動向の情報を提供しています。実際には、世界規模でのプロジェクト・マネジャーへのアンケート結果をまとめたものです。PMI会員の皆様にもアンケートは届いていますので、アンケートに回答することで、この調査へ貢献したことになります。パルス・レポートの日本語版は、PMI日本支部のHPから、PMIの会員でなくとも、どなたでもダウンロードすることができますので、是非、ご参考ください。

PM翻訳出版研究会で関わったパルス・レポート

(PMI's Pulse of the Profession®)

年度	出版物名
2014年	競争に勝つ 効果的なタレント・マネジメント
	ホワイトペーパー：優秀なプロジェクト人材（タレント）を育成する
2015年	低業績をもたらす高コスト コミュニケーションの重要性
	低業績をもたらす高コスト 2014年版
2016年	プロジェクトマネジメント 価値の獲得 知識継承を通して
	コスト高を生む低パフォーマンス ビジネス成果を改善する方法とは？
2017年	プロジェクトマネジメント 価値の獲得 意思決定を通して(仮称) 作成中

■部会紹介シリーズ

パルス・レポートのダウンロード方法



また、PM Network[®]、PMI Today[®]といったPMI会員向けの雑誌の記事も日本語翻訳しています。PMI[®]の標準本は、その性格上、PM用語は一意の日本語にするとといった厳格な翻訳作法が伴いますが、雑誌記事は、読み物として読みやすいように、多少の意識を入れたりして、もっと自由に翻訳しています。そうであっても、さまざまなテーマの記事を翻訳することで、なるほどと思えるような日本語翻訳に関する知識を身に着けることができます。

こちらの記事は、PMI日本支部の会員限定で公開しています。ここで翻訳される記事は、翻訳担当者が興味のある分野の記事を厳選しているため、さまざまな領域の記事が揃っています。更に、最近では、PM翻訳出版研究会だけではなく、各研究会やPMIアジアパシフィックサービスセンター主導のボランティア活動など、色々な立場の方々が日本語翻訳に関わっておりますので、こちらも是非ご覧ください。

PM 翻訳出版研究会で関わった最近の雑誌記事

雑誌名	記事名
PM Network [®]	(2015年4月号) 見積りエラーを避けるコツ
	(2015年8月号) 広範な世界
	(2016年5月号) 複雑さのマネジメントこそ鍵
	(2016年9月号) 戦略を実現する
	(2016年10月号) 腐ったリンゴ
	(2017年1月号) 現実性を増すAI活用
	(2017年5月号) ポップアップ・プロジェクト
PMI Today [®]	(2016年10月) 米国復員軍人のプロジェクト・マネジャー転身を支援

雑誌記事のダウンロード方法



PM翻訳出版研究会では、このようにPMI標準本では厳密に、雑誌ではより自由にと硬軟取り混ぜて日夜、日本語翻訳に関わっています。私達は、さまざまなバックグラウンドを持ちながら、翻訳に興味を持つという共通項を持ったメンバーの集まりです。翻訳作業そのものは、一人で行うため、必ずしも定例会に参加しなくとも活動を行うことができます。翻訳にご興味のある方、私達の部会に参加されませんか？

定例会風景

- 定例会: 毎月 第一金曜日 19時～21時
Skype参加も可
- 翻訳活動は場所を選びません。遠隔地でも活動できます。

【部会紹介シリーズ】その4

■プロジェクトマネジメント研究会

プロジェクトマネジメント研究会 副代表 加藤 裕哉

■はじめに

「プロジェクトマネジメント研究会」（以下、PM研究会と記します）は『PMBOK®ガイド』に関する情報の、収集、発信、改訂、実用化研究等を行うため2003年4月に設置されたPMBOK®委員会として活動を開始いたしました。2016年には支部組織改編に伴いプロジェクトマネジメント研究会に名称変更を行い、より活動の範囲を広げプロジェクトマネジメントの研究活動を行う研究会として下記に基づき現在は約20名のメンバーで活動しております。

(1) 『PMBOK®ガイド』の研究

PMBOK®の内容に関する調査研究、実務への適用についての研究

(2) プロジェクトマネジメント全般についての研究

メンバーそれぞれの知見、興味を基に研究テーマを選定し、ワーキング活動として考察・研究を行う。

(3) プロジェクトマネジメントに関する諸標準の研究

『PMBOK®ガイド』のみならず、プロジェクトマネジメントに関する諸標準を研究し、実務への適用を追求する。

(4) 上記 (1) から (3) の研究成果に関する情報発信

■これまでの研究成果と活動

研究会の研究成果の発信としては「PMI日本フォーラム」にて2009年以降、毎年研究成果の発表を行っております。

これ以外にも支部会員向けへの発信としてPMBOK®の理論を実務に適用していただくために、プロジェクトで利用するドキュメントのテンプレートを2015年に「PMBOK®第5版対応 テンプレート集」として支部会員向けに提供しております。

https://www.pmi-japan.org/member/pmbokv5/2015_03_09_3864.php

図1 PMBOK®第5版対応 テンプレート集



■部会紹介シリーズ

また、支部会員以外にも2014年12月から2016年5月にかけては『PMBOK®ガイド第5版』の紹介を全12回に連載し現在は「PMI®標準ガイド解説記事」としてPMI日本支部のホームページ内で会員様以外も参照できる情報として公開しております。

<https://www.pmi-japan.org/topics/pmi1/>

図2 PMI®標準ガイド解説記事

トピックス	
メニュー > トピックス > PMI標準	
PMI標準	
PMI標準	2016年05月09日 PMBOK®ガイド第5版紹介シリーズ 第12回 (総編集終局) - PMBOK®ガイド第5版
PMI標準	2016年03月28日 PMBOK®ガイド第5版紹介シリーズ 第11回 - PMBOK®ガイドは使えるのか?
PMI標準	2016年03月02日 PMBOK®ガイド第5版紹介シリーズ 第10回 - プロジェクト統合マネジメント
PMI標準	2016年01月26日 PMBOK®ガイド第5版紹介シリーズ 第9回 - リスク・マネジメント
PMI標準	2015年12月25日 PMBOK®ガイド第5版紹介シリーズ 第8回 - タイム・マネジメント
PMI標準	2015年11月27日 PMBOK®ガイド第5版紹介シリーズ 第7回 - スコープ・マネジメント
PMI標準	2015年04月15日 PMBOK®ガイド第5版紹介シリーズ 第6回 - ポートフォリオマネジメント標準、プログラムマネジメント標準
PMI標準	2015年03月11日 PMBOK®ガイド第5版紹介シリーズ 第5回 - アジャイル型ライフサイクル
PMI標準	2015年02月10日 PMBOK®ガイド第5版紹介シリーズ 第4回 - ナレッジ・マネジメント
PMI標準	2015年01月16日 PMBOK®ガイド第5版紹介シリーズ 第3回 - ステークホルダー・マネジメント
PMI標準	2015年01月15日 PMBOK®ガイド第5版紹介シリーズ 第2回 - ISO 21500について
PMI標準	2014年12月04日 PMBOK®ガイド第5版紹介シリーズ 第1回 イントロダクション

研究会が行っているコミュニティ活動として「PM-ZEN」を運営しています。

禅といっても、趣旨はプロジェクト活動の悩みについて皆で"気楽"に(ビール片手に?)語り合おうというものです。

これはPMBOK®委員会時の合宿の際にアイデアが出されたもので、セミナーや研修の形ではなく、もっと気楽にPM同士の悩みを語り合い、あるいは先輩諸氏の話を聴く場が欲しいという要望を実現するコミュニティです。

今までに「お題」となったものは以下のようなものがあります。

- 誰がためにプロジェクトは行われる? ~プロジェクトを博打にしない! ~
- PMBOK®に見るステークホルダーエンゲージメント
- 炎上プロジェクトからの生還 ~ 私はこうやって切り抜けた ~
- プロジェクト・マネジャーと指揮者

<https://pm-zen.connpass.com/>

図3 PM-ZENの風景



研究会という敷居が高いと思われた方、まずは気楽に話したいと思われた方に好評で、現在まで16回の開催となっております。

■今後の活動

2017年9月に『PMBOK®ガイド第6版』が公開されたことを受けPM研究会では第5版からの変更点や実務への適用についての研究を中心に行っていく計画です。またメンバーそれぞれの知見、興味を基に研究テーマをWGとして本年度は「ナレッジマネジメント」、「ガバナンス」、「品質」といったテーマを研究していく予定です。

■おわりに

PM研究会では、プロジェクトマネジメントに関して、さまざまな情報に接し、深い知識を得たいと思う方の参加を歓迎しています。研究会の定例会は第3金曜日 PMI日本支部会議室で行っております。(首都圏以外もしくは海外在住の方は、インターネット電話会議形式で参加も可能です。)

ご興味を持った方は下記からぜひコンタクトをお願いいたします。

https://www.pmi-japan.org/session/study_club/pmbok.php

【部会紹介シリーズ】その5

■若手PM育成StudyGroup

若手PM育成StudyGroup リーダー 高橋 宏壽

■若手PM育成StudyGroupについて

若手PM育成StudyGroup（以下、当SG）は、PMI日本支部が行った法人スポンサー向けアンケート調査において、取り上げて欲しいテーマとして上位に挙げられた「若手PM育成」について、2010年11月からその育成方法を下記のように整理し、検討を順次実施しております。

第1テーマ 「PM認定（選抜）ポイント・方法は何か（完了）」

第2テーマ 「PMのモチベーション維持の方法（完了）」

第3テーマ 「PMの育成方法（現在検討中）」

現在、日本のPMは高齢化が進み、10年後には現役PMの25%が引退すると言われており、現在から近い将来に向けて多数のPMポジションが創出されると予想されており、若手PMの育成は、各社・団体とも喫緊の課題と言われております。

当SGではこの課題に正面から取り組むべく、日本全体のPM人口の増加、PMの地位向上、その能力UPを全て取り上げる意欲的なテーマを選定し活動を進めております。

■検討テーマについて

当SGで取り上げ、検討しているテーマの概略は以下のようなものです。

(1) 第1テーマ「PM認定（選抜）ポイント・方法は何か」（検討完了）

PMの育成には若手・シニアにかかわらず大変な時間と労力がかかると言われております。また、PMには適性があるとも言われており、当SGでは「PM育成」を効率良く行うことを目標に、PM候補者を分類する方法を検討しました。

<< 成果物 >>

「PM特性表」

これは、PM候補者を評価する方法として「行動特性（30項目）」と「資質特性（20項目）」を検討し、一覧

化したものです。

この「PM特性表」の項目（計50）は以下のように分類されます。

①PMに必要な項目で開発可能性^(※)が高い項目

➡教育等で能力UPを図る項目

②PMに必要な項目で開発に工夫が必要な項目

➡教育に工夫が必要な項目

③PMに必要な項目で開発可能性^(※)が低い項目

➡教育が難しいがPMに必要な項目

※開発可能性＝教育等でその能力UPが期待できるか

この項目①～③の評価点の中で「③」の項目の点数が高い人をまずは「PM候補者とする」ことができます。もちろん、それ以外の人は、教育を行う、教育を工夫するなどして、PM候補者に位置付けることが可能となっています。

(2) 第2テーマ「PMのモチベーション維持・向上の方法」（検討完了）

最近、プロジェクト遂行の現場では「PMになりたい人が増えている」という声をよく聞きます。これは、「PMは大変そう」、「PMのモチベーションが低下している」ということではないかと当SGでは考えました。そこで、この問題を解消すべく、

「PMになりたい人を増やす」

➡「PMは大変だけど充実している」

➡「PMを魅力的な職業とする」

と思考を進め、「PMのモチベーションの維持・向上させるにはどうすべきか」という課題を再定義し、PMを取り巻く全方位のステークホルダー（プロジェクト・スポンサー、PM上司、PMO、メンバー、会社・組織等）がどのように振る舞うべきかをPM視点で整理しました。

整理に当たってはPMのモチベーションが「上がるシー

■部会紹介シリーズ

ン」「下がるシーン」を抽出し、そのシーンでは各ステークホルダーがどのように行動すべきかを検討しました。

<< 成果物 >>

この検討結果は以下の2つの成果物にまとめました。

- ①ステークホルダー別行動一覧表
- ②ステークホルダー別行動規範

この内容はPMI日本フォーラム、法人スポンサー連絡会、PM部門長セミナー等で発表し「共感する」、「実用的」、「成果物を公開して欲しい」との声を多数いただき、2016年9月に法人スポンサー様向けに公開させていただきました。

- (3) 第3テーマ「PMの育成方法(一般論ではなくSGメンバーの経験からノウハウを集約)」PM育成の核となる「PM育成方法」をメンバーが所属する各社の事例を持ち寄り、その内容、効果、課題などをメンバー間で共有・検討しております。この第3テーマは2017年中の検討完了を目指し、現在活動中です。

〔検討の中で整理している項目(5社の育成方法を以下で整理)〕

- ①教育体系／資格認定制度とのリンク
- ②講座構成・概略
- ③講師・教材
- ④受講者(受講者選定方法も)
- ⑤受講者の反応
- ⑥受講後のアフターフォロー内容
- ⑦良かった点、悩み事

- (4) 運営

時間：2時間／月

場所：メンバー各社で持ち回り

現在のメンバー 15名(8社)

現在も活動メンバー募集中です。メンバーになっていただければ、第1～3テーマの成果物を共有できます。



討議風景(合宿)



ネットワーキング風景



2014年度PMI日本支部大賞受賞!

Activities / 支部活動

PMI Japan Festa 2017



Managing uncertainty

2017年11月11日(土)・12日(日)

～ 未知の領域においても志高いプロジェクト・マネジャーに ～

2017年11月11日(土)、12日(日)の2日間にわたり、PMI Japan Festa 2017を開催します。

現代は世の中の不確実性に対応するためにプロジェクト・マネジャー自らが柔軟に変化に対応できるような心構えが必要な時代です。多彩な講師陣の豊富な経験を共有することで、新たな視点・考えるヒントを得て、プロジェクト価値の最大化に向けてまい進しましょう。

- 開催日■ 2017年11月11日(土)・12日(日)
- 受付開始■ 11:00～(11日) 9:00～(12日)
- 講演■ 11:45～17:15(11日)
9:30～15:35(12日)
- 交流会※■ 17:30～19:30(11日のみ)

※交流会には何人かの講師も参加されます。講演内容や日ごろの実務で感じている問題を講師へ問いかけたり、PM同士でざくばらんに話ができる良い機会です。初めての方もお気軽にご参加ください

- 受講証明■ 最大9PDU
(2日間合計) Leadership:4.0 Strategic&Business Management:5.0
ITC実践力ポイント9時間分
- 定員■ 各日とも450人(申込み順)
- 申込方法■ PMI日本支部 トップページのバナー
「PMI Japan Festa2017」からどうぞ
- 主催■ PMI日本支部 セミナープログラム
- 予告動画配信■ 講師メッセージ等を予告動画で順次配信します



■参加費(税込)■

	PMI日本支部会員	法人メンバー社員	一般	受講証明
1日目のみ	12,000円 13,500円	16,000円 18,000円	25,000円 27,000円	4.5PDU
2日目のみ	12,000円 13,500円	16,000円 18,000円	25,000円 27,000円	4.5PDU
両日参加	22,000円 25,000円	30,000円 34,000円	48,000円 52,000円	9.0PDU
交流会	2,000円	2,000円	2,000円	—

上段の金額は、10月11日(水) 15:00 までに入金確認できた方への早割料金です。

◇ 同時中継システム (PDU受講証明書発行)

東京会場の状況を全国向けに同時中継します。スマートフォンやタブレットでも聴講可能ですので、当日、東京の会場にお越しになれない方は是非ご利用ください。PDU受講証明書等は豊洲会場にいられた方と同様に発行します。

通信環境および視聴機器のセキュリティ状況や性能によっては、ご視聴いただけない場合がありますので、事前に視聴テストサイトをご確認の上でお申込みください。

■場 所■

【講演会場】

芝浦工業大学 豊洲キャンパス
交流棟6階 大講義室

東京都港区芝浦3丁目7番5

- 東京メトロ有楽町線「豊洲駅」
1C出口から徒歩7分
- ゆりかもめ「豊洲駅」から徒歩9分



大講義室



【交流会会場】

芝浦工業大学 豊洲キャンパス
交流棟3階 豊洲カフェテリア

PMI Japan Festa2017ホームページ



Activities / 支部活動

■PMI Japan Festa 2017 のご案内

PMI Japan Festa 2017



■プログラム構成■

【11月11日（土）】

		時 間	テーマ	講 師
K-1		12:00 ～ 13:00	泥にまみれる ～富士通の農業クラウド開発プロジェクト～	渡辺浩司 氏 富士通 株式会社イノベティブ IoT事業本部 Akisai事業部
K-2		13:15 ～ 14:15	『Red Bull AIR RACE CHIBA』 ～ 厳格な日本の規制の中、なぜ開催できたのか？ ～	河野真二 氏 株式会社 エアレース・ジャパン 代表取締役
K-3		14:30 ～ 15:30	富士フィルムのイノベーション	柳原直人 氏 株式会社 富士フイルム 執行役員 R&D 統括本部長 兼 高機能材料開発本部副本部長 兼 経営企画本部副本部長、イノベーション戦略企画部管掌
K-4		15:45 ～ 17:15	世界初を生み出すセブンドリーマーズ ～全自動衣類折りたたみ機 ーランドロイドー への挑戦～	阪根信一 氏 セブン・ドリーマーズ・ラボラトリーズ 株式会社 代表取締役社長

【11月12日（日）】

		時 間	テーマ	講 師
K-5		9:30 ～ 11:00	UPDATE MOBILITY ～ 自動運転に挑むSBドライブの取り組み ～	上村 稔 氏 SBドライブ株式会社 取締役、ソフトバンク株式会社 経営企画本部 副本部長、Softbank University 認定講師 (PM研修担当)
K-6		11:15 ～ 12:15	変化し続ける組織のプロダクト戦略史 ～経理の自動化から始まったビジネスプラットフォームへと続く道～	鈴木一也 氏 freee株式会社 プロダクト戦略本部長
K-7		13:15 ～ 14:15	日本発の民間月面探査チーム「HAKUTO」の挑戦とレース後の展望	袴田武史 氏 株式会社ispace 代表取締役&ファウンダー、HAKUTO代表
K-8		14:30 ～ 15:30	インドネシア・ジャカルタ市内での高速道路建設工事 ～落下傘部隊の奮闘記～	大西陽子 氏 株式会社 大林組土木本部 本部長室 企画課長



募集ページ



講演概要

PM Calendar / PM カレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。

詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

■ PMI日本支部関連セミナー

● 全国9都市開催 地域セミナー

～ PMI最新動向の解説と紹介 ～

- 日時：9月23日(土)～12月2日(土)
いずれも午後4時間
- 場所：静岡市、札幌市、仙台市、大阪市、奈良県生駒市、
金沢市、広島市、福岡市、名古屋市
- 2.75PDU

● 関西ランチ主催「あかね実践工房」

- 日時：10月13日(金) 19:00～21:00
- 場所：ニッセイ新大阪ビル14階
NITセミナールームB
- 2.0PDU、ITC実践力ポイント2時間分

● 転ばぬ先の杖、現場で使うためのリスク・マネジメント

- 日時：10月21日(土) 10:00～17:30
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 6.0PDU、ITC実践力ポイント6時間分

● アジャイル プロジェクト基礎

- 日時：10月26日(木) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分
PMI-ACP®受験用事前学習時間7時間

● PMO研究会 セミナー&ワークショップ

～ 今求められるPMOのありかた ～

- 日時：10月28日(土) 13:00～17:30
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 4.0PDU、ITC実践力ポイント4時間分

● PMI日本支部中部ランチ 設立2周年記念特別セミナー

- 日時：10月28日(土) 14:00～18:00
- 場所：名古屋大学医学部附属病院基礎研究棟4階
第4講義室
- 3PDU、ITC実践力ポイント3時間分

● デザイン思考基礎

～ 優れた顧客経験(CX)を提供する ～

- 日時：10月31日(火) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● デザイン思考実践(二日間)

～ 顧客経験(CX)からの革新商品&サービス開発 ～

- 日時：11月29日(水)・12月6日(水)
9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 14PDU、ITC実践力ポイント14時間分

● アジャイル プロジェクト スタートアップ入門

～ 見積り・計画編 ～

- 日時：11月30日(木) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

■ PMI日本支部関連イベント

● PMI Japan Festa 2017

- 日時：2017年11月11日(土)・12日(日)
- 場所：芝浦工業大学豊洲キャンパス（東京都江東区）
- 同時中継システム
- 現地参加・同時中継システム参加とも、9PDU、ITC実践力ポイント9時間分

【月例セミナーについて】

2017年度の月例セミナーは、千代田区神田の会場で下記の日程で行っています。

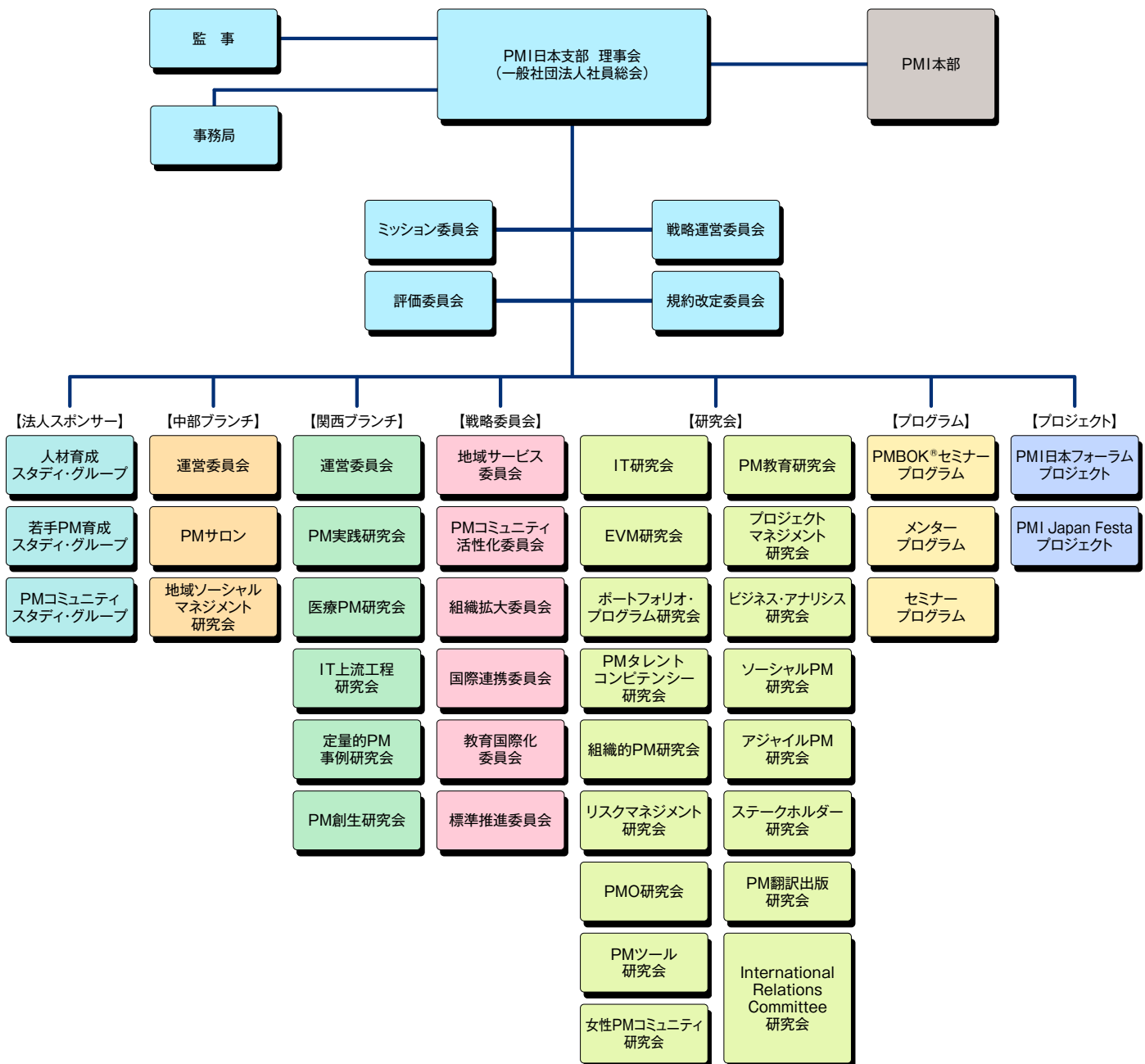
【日程（予定を含む）】	① 2017年1月13日(金)	④ 2017年4月14日(金)	⑦ 2017年 9月8日(金)
	② 2017年2月10日(金)	⑤ 2017年5月12日(金)	⑧ 2017年12月6日(水)
	③ 2017年3月10日(金)	⑥ 2017年6月 9日(金)	
【場 所】	エッサム神田ホール 2号館（JR、東京メトロ銀座線「神田」駅から徒歩3分）		

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。[\(https://www.pmi-japan.org/event/\)](https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2017年9月現在)



■理事一覧 (2017年9月現在)

会 長	：奥 澤 薫 (KOLABO)
副会長	：片 江 有 利 (PMアソシエイツ株式会社)
副会長	：端 山 毅 (株式会社NTT データ)

(以下、五十音順)

理 事 (PMコミュニティ活性化担当)	：麻 生 重 樹 (日本電気株式会社)
理 事 (教育国際化担当)	：井 上 雅 裕 (芝浦工業大学)
理 事 (戦略運営、地域サービス担当)	：浦 田 有 佳 里 (株式会社HS情報システムズ)
理 事 (地域サービス担当)	：木 南 浩 司 (株式会社マネジメントソリューションズ)
理 事 (教育国際化担当)	：斉 藤 学 (スカイライトコンサルティング株式会社)
理 事 (国際連携担当)	：杉 村 宗 泰 (日本マイクロソフト株式会社)
理 事 (ミッション、標準推進担当)	：鈴 木 安 而 (PMアソシエイツ株式会社)
理 事 (ミッション、組織拡大担当)	：武 上 弥 尋 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理 事 (PMコミュニティ活性化担当)	：高 橋 正 憲 (PMプロ有限公司)
理 事 (PMコミュニティ活性化担当)	：竹 内 正 興 (一般財団法人国際開発センター)
理 事 (PMコミュニティ活性化担当)	：当 麻 哲 哉 (慶應義塾大学大学院)
理 事 (組織拡大担当)	：徳 永 幹 彦 (株式会社日立インフォメーションアカデミー)
理 事 (標準推進担当)	：中 嶋 秀 隆 (プラネット株式会社)
理 事 (PMコミュニティ活性化担当)	：福 本 伸 昭 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理 事 (財政担当)	：三 嶋 良 武 (株式会社三菱総合研究所)
理 事 (戦略運営、組織拡大担当)	：森 田 公 至 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理 事 (教育国際化、標準推進担当)	：除 村 健 俊 (株式会社リコー)
監 事	：神 庭 弘 年 (神庭PM研究所)
監 事	：平 石 謙 治 (ビー・ティー・ジー・インタナショナル)
監 事	：渡 辺 善 子 (株式会社日本政策金融公庫)

■最新の会員・資格者情報 (2017年7月31日現在)

会員数		資格保有者数								
		PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®
PMI 本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
486,672人	3,637人	791,448人	35,778人	4人	6人	4人	27人	3人	3人	106人

■行政スポンサー (2017年9月現在)

- ・三重県 桑名市
- ・滋賀県 大津市

■法人スポンサー 一覧 (106社、順不同、2017年9月現在)

- TIS 株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノンITソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- 株式会社ジェーエムエーシステムズ
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータ
- 日本マイクロソフト株式会社
- プラネット株式会社
- 株式会社建設技術研究所
- 日本ユニカシステムズ株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ヒューレット・パッカード株式会社
- 株式会社アイ・ティ・ワン
- コンピューターサイエンス株式会社
- 株式会社タリアセンコンサルティング
- TDCソフトエンジニアリング株式会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- 日本ユニシス株式会社
- Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- JBCC 株式会社
- 株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
- 日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立インフォメーションアカデミー
- 情報技術開発株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- アイシンク株式会社
- 千代田システムテクノロジーズ株式会社
- 三菱総研DCS 株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTT データアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NEC ネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電気情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDIソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- International Institute for learning - Japan 株式会社
- 株式会社ラック
- ニューソン株式会社
- 三菱電機株式会社
- TAC 株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 日立INSソフトウェア株式会社
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社

- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- Innova Solutions, Inc.
- 株式会社ワコム
- 株式会社HGST ジャパン
- NCS & A 株式会社
- 日本システムウェア株式会社
- 日立物流システム株式会社
- SCSK 株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- SOMPO システムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS & AD システムズ株式会社
- 日本クイント株式会社
- 第一生命保険株式会社
- リコージャパン株式会社
- 株式会社HS情報システムズ
- 株式会社アジャイルウェア
- 株式会社ビジネス・ブレイクスルー
- ソフトバンク・テクノロジー株式会社
- 株式会社インテージテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- セブンスカイズ株式会社
- 関電システムソリューションズ株式会社

■アカデミック・スポンサー 一覧 (39教育機関、登録順、2017年9月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 北海道大学 サステイナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 大阪府立大学 21世紀科学研究機構 産学協同高度人材育成センター
- 慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
- 就実大学 経営学部
- 神戸女子大学 家政学部 家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科 大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- 2017年9月6日、ついにリリースとなった『PMBOK®ガイド第6版』。その特徴について、標準推進担当の鈴木安而理事が解説します。
- 日本支部の部会活動紹介シリーズは、前号に引き続き、『PM翻訳出版研究会』、『プロジェクトマネジメント研究会』および、法人スポンサー企業社員による『若手PM育成Study Group』の3つです。
- 11月11日・12日に開催する「PMI Japan Festa2017」。今年は芝浦工業大学豊洲キャンパスで開催します。PMI日本支部として初めて、全国向けに同時中継システムを導入。会場にお越しになれない方は、PCやタブレット等があればご自宅でも聴講いただけ、PDU受講証明書も発行されます。是非同時中継システムもご利用ください。

ニュースレター編集担当から読者の皆様へお願い

ニュースレターは、皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。お気軽にPMI日本支部事務局宛てにお送りください。

PMI 日本支部ニュースレター Vol.72 2017年9月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)